

# カルチャーベース おちゃのま

学問と芸術が花開くまちの地域のリビング



## ちやのまギャラリー (1F)

スタジオで製作された作品や、他展示を見ながらゆったり過ごすことができる空間。  
どのような空間にも対応するためホワイトキューブ調にしつつも、机や階段には木材を使うことで居心地の良い空間にしている。  
また、階段を右に寄せることで、外から奥のスタディスペースまで直線状に見ることができるようにした。これによって、外から施設内の様子が分かりやすく、空間の一体感も生むことができる。



## ちやのまギャラリー (2F)

スタジオで製作された作品や他作品の展示空間。  
どのような空間にも対応するためホワイトキューブ調にしているが、そのまま古民家の内観を残す場合でも作品に新たな解釈を生むことができる。  
窓をそのままにして、大きく採光をとっている。これによって、時間の流れや外の音など様々な要素を作品に取り込むことができる空間とした。



## ちやのまギャラリースタディスペース

スタディ・ワーキングスペースとして開かれた空間。周囲にこういった勉強ができるスペースはあまりないので、学生の利用者を呼び込むことができる。また、空間には本棚を設置しており、様々なジャンルの書籍を読むことができる。これによって、「きっかけ」を得た利用者がすぐ学べるような環境を整えている。



## ちやのまスタジオ居住スペース

スタジオ利用者の居住スペース。庭を眺めながらゆったり過ごすことができ、創作活動中の休憩中に自然を見ることでリラックスしたり、インスピレーションが湧いたりするような空間とした。  
複数人の利用を考え、ベッドではなく布団を用いており、そのためあまり物を置かないようにした。



## ちやのまスタジオ

自由に創作活動ができるスタジオ。どのような作品にも対応できるようホワイトキューブ調にしている。  
ちやのまギャラリーから最も離れた場所に据えることで、集中して活動できるようにした。また、庭を見ることができるようになっており、外部からの刺激を与え、閉じこもった単調な空間にならないようにしている。  
どのような活動にも対応できるよう、机や椅子などを収納できるようにしている。



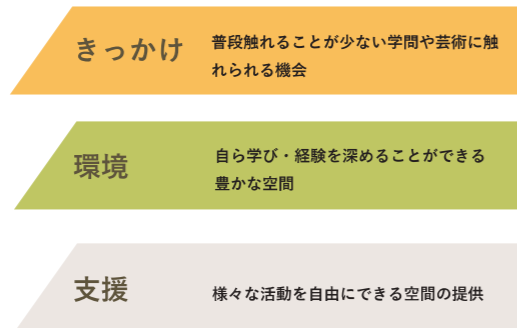
## 01 学問と芸術が花開くまちへ



足守には「足守三大偉人」と呼ばれる人物がいる。医学に精通し、天然痘治療に大きく貢献した緒方洪庵、歌人であり、自身の歌風である「利玄調」を確立した木下利玄、墨書に秀でており、近世四大書僧と呼ばれる寂庵の3人である。

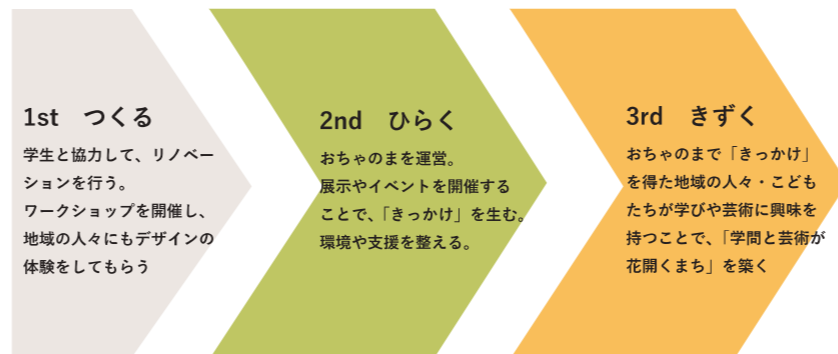
この足守三大偉人の共通点として「学問」「芸術」に長けていることであることに着目し、この3人を育てた足守を「学問と芸術が花開くまち」として更に発展させるプロジェクトを考えた。今回はそのプロジェクトの足がかりとして地域のリビングを提案する。

## 02 「きっかけ」「環境」「支援」



「学問と芸術が花開く街」を実現するためには、地域の人々に学びへのきっかけを与えることが第一歩である。次に学びを深め、経験を詰める環境を整備し、積極的に支援することで、豊かなまちを築いていく。

## 03 プロジェクトのプロセス



3rd以降は足守に点在する空家をおちゃのま同様カルチャーベースとしてリノベーションし、きっかけを得た人々により豊富な活動を提供するとともに、足守を更に「学問と芸術が花開くまち」として形成していく。

## 04 育む3つの空間



1階平面図 S=1:100



2階平面図 S=1:100

### きっかけ ちやのまギャラリー

まちのリビングとして地域に開きながら、スタジオで作成された作品や、様々な分野の展示を開催することで、「きっかけ」を与えやすくしている。また、イベントスペースとして利用することもできる。

### 環境 ちやのまギャラリー+スタジオ

スタディ・ワーキングスペースを設け、リビング的機能を広げるとともに、自身で学びを深めることができる「環境」を提供する。また、スタジオで自由に創作活動ができる「環境」も提供する。

### 支援 ちやのまスタジオ

創作活動ができるスタジオと、利用者が寝泊まりできる空間を貸し出すことによって、自由な創作活動を「支援」する。